



謡曲「鉢木」と安中

ある雪の日、鎌倉に向かう僧(鎌倉幕府執権の北条時頼)が板鼻から川を下り佐野の渡し(高崎)に到着します。悪天候に道を阻まれた僧は、ここで一夜の宿を求めようと近くの民家を訪ねます。この家の主は零落した武士で、名を佐野源左衛門常世といいました。暖を取る薪すらない困窮した暮らしを送る常世は、なんとか僧をもてなそうと秘蔵の「梅・桜・松」の鉢木(盆栽)を薪にして火にくべます。僧の正体が時頼だと知らない常世は「どんなに落ちぶれても鎌倉に一大事があれば、いの一番に駆けつける」と覚悟を語りました。後日、その言葉通りに常世が鎌倉へ駆けつけると、時頼は常世の



令和3年度 文化財愛護ポスター



優秀賞

第一中学校(1年)

萩原 悠真さん

忠誠心をたたえて鉢木になぞらえた土地「加賀の梅田、越中の桜井、上野の松井田」を恩賞として与えます。こうして常世は再び武士として世に返り咲いたのでした。

作中、僧が川を下る場面は「墨の衣の碓氷川、下す筏の板鼻や、佐野のわたりに着きにけり」と謡われています。中世の板鼻は東山道と鎌倉街道が通り、また「下す筏の板鼻や」という描写からもうかがえるように、水陸の交通の要衝でした。

また、緊急時に全力を出すことを言い表した「いざ鎌倉」という言葉は、この「鉢木」の謡曲から生まれたといわれています。

春季企画展「文学・芸術の中の安中」は7月4日(月)までふるさと学習館市民ギャラリーで開催しています。

7月6日(水)と7日(木)は展示片付けのためふるさと学習館は臨時休館です。

主従の出会い(3)

「この小僧め、旦那様にお慈悲をかけてもらったにもかかわらず大事な荷物を盗みよったのだ！」
藤蔵が怒鳴ると、家の中まで聞こえたらしい。中から「謝罪をさせていだきたい」と男の声が出た。

藤蔵が憤りながらあばら家へ入ると、小僧の父親がせんべい布団からよろよろと這い出してきた。ひどい病のようである。「すべて聞こえました。殴られるどころではない、殺されても仕方のないこと。草三郎、飢えて死のうとも人様のものを盗むなど教えたではないか。まことに許しがたい。父が始末をつけてやる。おはる、脇差しをだせ」

「あなた、そればかりはご勘弁ください。草三郎、お前も謝りなさい。もう二度としないと約束できますね」
「ならん。この先どのような悪党になるかわかったものではない。この方

の前でそやつを斬ってお詫びする」

父親の剣幕に困ったのは藤蔵である。「いや、そこまでしなくても」などためにかかると、父親は小僧の髪をつかんで引き寄せるとせええと息を切らしながらいざり寄り、立てかけてあった脇差しを手を取った。しかし病のために弱り切った鞘を払うことさえできぬ有様である。

「おはる、鞘を払え」
「どうかご勘弁ください、あなた。どうか」

「勘弁などできるものか。これを抜け」
「いや、いや、とんでもない。こんな子どもを斬られても困りますよ」

と、父親を母親と藤蔵とでなんとか思いとどまらせようとしていると、恒川が追いついてきた。「ご亭主、私は品物が無事なら構いません。あなたの子ですから斬るも殴るもあなたのご判断でしよう。しかし我々のためと殺生されては迷惑いたします」(つづく)

問合せ▶安中市学習の森 ふるさと学習館 午前9時～午後5時(入館・ミュージアムショップは午後4時30分まで)
安中市上間仁田951 ☎027-382-7622(ふるさと学習館) ☎027-388-0038(生涯学習施設予約)
【7月の休館日】7/5(火)、7/6(水)、7/7(木)、7/12(火)、7/19(火)、7/20(水)、7/26(火)